

Center for Cell Signaling and Medical Innovation

シグナル伝達医学講演会・大学院特別講義先端医学トピックス

国立研究開発法人
医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長

米田悦啓

日時 令和元年7月3日(水)

17:20~19:00

場所 大講義室

(外来診療棟 6F)



核輸送因子の発見から 見えてくるもの

アメリカの細胞生物学者ギュンター・ブローベルが、分泌蛋白質の細胞内輸送メカニズムの解明に関する業績により、1999年にノーベル生理学・医学賞を授与されたことからわかるように、細胞内蛋白質輸送の研究は非常に重要である。真核細胞は、核と細胞質が核膜によって隔てられており、細胞が生きるためには、核膜に存在する核膜孔を通して、機能分子が核と細胞質間を効率よく正確に輸送されることが必須である。従って、その輸送の分子メカニズムを解明することは、様々な生命現象を理解する上で極めて重要である。

本講演では、先ず、核-細胞質間蛋白質輸送に必須の因子であるimportin alpha/betaの発見など、核蛋白質輸送の基本メカニズムの理解がどのように進められたかを概説する。さらに、それらの輸送因子の発見が、細胞分化、発生、ストレス応答などの複雑な生命現象の理解にどのように貢献したかを解説する。また、最近、核輸送装置が、細胞のがん化や老化などにも深く関わってくることが明らかになり、それらを標的とした創薬への展開が進められていることにも触れたい。

コーディネーター：細胞生理学分野 南 康博 教授
主催：シグナル伝達医学研究展開センター

連絡先：研究支援課研究企画係 内線：5195 mail：k9shien@med.kobe-u.ac.jp

参加申込不要